



# 井の頭自然文化園

## 17号

2014年7・8月号

2014年(平成26年)7月1日

編集・発行  
いのきちさん編集委員会  
編集長 川井信良  
東京都三鷹市上連雀 1-12-17  
株式会社文伸 発行  
電話 0422-60-2211  
FAX 0422-60-2200  
メール inokichi@bun-shin.co.jp

協力  
東京都西部公園緑地事務所  
東京都井の頭自然文化園  
井の頭恩賜公園100年実行委員会  
NPO 法人みたか都市観光協会  
一般社団法人武蔵野市観光機構  
制作支援  
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園  
開園100周年まで

あと2年10ヵ月

※前16号の記載に「その4」とあったのは、「その3」の誤りです。

### 井の頭自然文化園

●夏の怪談スタンプラリー「動物園怪談画劇~井の頭百物語・式~」  
怪談をテーマにスタンプラリーを実施します。創作怪談を読みながら園内を回ること、動物や施設の特徴を知ることができます。

- 日時：平成26年7月19日(土)~8月31日(日)
- 定員：各日先着1,000名(動物園と水生動物園をあわせて)

●夏の事前募集イベント(メールと往復はがきで受け付けます)

- 1 身近ないきもの探検~みんなのまわりの虫たちを探してみよう~  
●日時：平成26年8月9日(土)9:45~15:00  
●対象：小学2~6年生および保護者(子供だけの参加も可。) ●定員：20名  
●内容：園内の虫たちの暮らしをのぞき、虫たちの色や形など、様々な見方を探ります。  
●締切：平成26年7月26日(土)

- 2 ものけけワークショップと夜の動物園探検~動物妖怪絵巻をつくろう~  
●日時：平成26年8月17日(日)16:30~19:30  
●対象：小学4年生以上(小学生は保護者同伴) ●定員：30名  
●内容：「妖怪工作」では、動物のパーツ写真をコラージュして描く妖怪画を作ります。「夜の動物園ツアー」では、怪談の舞台を巡ります。  
●締切：平成26年8月2日(土)

- 3 夜の身近ないきもの探検  
●日時：平成26年8月24日(日)17:00~20:00  
●対象：小学4年生以上(小学生は保護者同伴) ●定員：30名  
●内容：夜の園内で野生のコウモリや、トラップに集まってくる生き物、セミの羽化などを観察します。  
●締切：平成26年8月9日(土)

- アムールヤマメネコの子ども名前を募集します  
平成26年3月17日生まれのアムールヤマメネコの子どもの名前を募集します。5つの候補から、選んで応募下さい。応募箱は、動物舎前に設置します。  
●投票期間：7月21日(月・祝)まで

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

### 井の頭恩賜公園

ネイチャー☆プログラム 次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 7月6日(日)、8月3日(日)、9月7日(日)
- ツリー☆マジック(第二公園) 7月、8月、9月
- グリーンバード(井の頭池付近) 7月13日(日)、8月10日(日)、9月14日(日)
- どんぐりひろば(御殿山広場) 7月10日(木)、9月4日(木)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html> に載せてます。

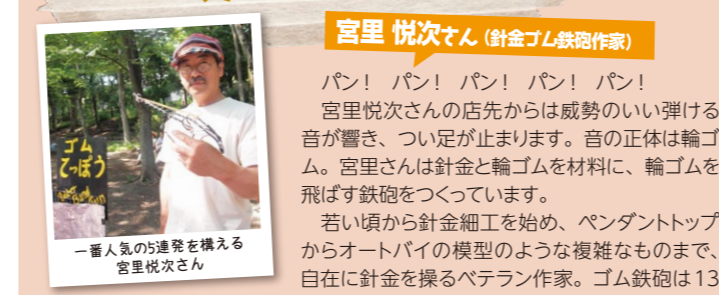
### 井の頭かんさつ会

- 第111回「かいぼり後の池」 7月19日(土)10:00~12:00
  - 第112回「夜の生き物観察」 8月9日(土)夕~夜(時刻未定)
- 事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/>

### 第3回『いのけん』の募集要項が完成しました

第3回井の頭公園検定の募集要項が配布されています。今年は1級受験と3・2級受験の試験日が違いますので注意してください。募集要項はみたか観光案内所と武蔵野市観光機構や吉祥寺アトレ1階のインフォメーションセンターなどにおいてあります。

## アートマーケットと ファンアーティストの人々



一番人気の5連発を構える 宮里悦次さん

基本の構造は、輪ゴムを銃口に引っかけ、銃身に沿って伸ばし、引き金を引いて飛ばすという単純なもの。1発飛ばす「ハエパスター」は、その名の通りしかとハエを仕留めます。5連発の「ショッカー」、10連発の「マグナム」となる。構造の輪ゴムは劣化しても自分で交換可能。単純なおもちゃであればこそ、楽しく長く遊び続けられることを伝えてくれます。

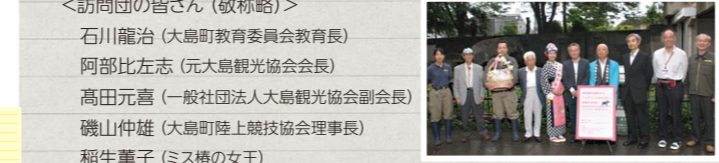
小田原 澁 (おだわら みお)  
編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土・日・祝日に開催しています。

### 大島からの訪問団

1949年来日したはな子は、移動動物園として、主に、多摩地区を巡回しました。1951年には、伊豆大島にも、海を越えて渡っています。ライオンやダルマガエル、剥製標本18点や様々な教材も一緒でした。6月1日から15日までの期間中、散歩中だったはな子が茂みに逃げ、飼育係員が捕まえるという事態も起きました。

今回、この63年前に大島ではな子に出会った方々(当時8歳の方も!)を中心に、はな子の長寿を祝い、表敬訪問団が来園しました。



思い出のメッセージと、大きな果物かごをいただきましたが、はな子は特に稲生さんのあんこ娘姿が気になるようでした。訪問団の皆さんも、はな子に元気をもらい、「きつとまた来るよ」の言葉を残して帰られました。これからはな子が元気であらうよう、がんばっていきたいと思います。(井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉)

## 井の頭公園の生き物たち



アメリカザリガニのオス

手ごわい人気者  
原産地は米国南部ミシシッピ川流域の湿地帯。それと似た環境の、浅く流れが少ない水域を好みます。1927年に食用蛙の餌として鎌倉に持ち込まれ、日本には水田があったため、短期間に全国に広がりました。在来種のニホンザリガニは元々東北以北にしかいないので、井の頭のザリガニは赤くなくても小さくても皆アメリカザリガニです。子供には大人気で、ザリガニと遊んで育った人は昔から多いのですが、生態系への大きな害が認識されるようになったのは最近のことです。ザリガニは雑食性で、昆虫などの水生

動物を捕食し、水草を食べたり切ったりします。泥に穴を掘るため、水を濁らせたり水漏れを引き起こしたりもします。貴重な動植物を絶滅させてしまうことがあるのです。すでに全国に広がっているため、指定は要注意外来生物止まりですが、他の場所に放すことは慎むべきです。



井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

## 17 朗報と悲報

お茶の水池のカップルは3個の卵を産み、5月の初旬に2羽のヒナが誕生しました。親鳥が与えていたのは、最初はガガンボやトンボのヤゴなどの大きな虫。成長が遅く感じましたが、増えたモツゴの稚魚が餌に加わると、すくすく育つようになりました。ところが、オス親が事故死する事件が6月の初旬に発生。井の頭池の復活を心待ちにして、池を離れてもしましにばようすを見戻して来ていたオスだっただけに無念です。まだ魚を捕れない子供たちをメス親だけで育てられるのか、ボート池に現れたカップルになわばりを奪われないのか、心配しましたが、ヒナたちは母親から魚をもらうだけでなく、たくさんいる虫を自分で拾い、6月中旬には潜水して魚を捕れるまでに成長しました。ボート池のカップルも抱卵中で、順調なら、この号が出るころにはヒナが誕生するはず。そして早くもお茶の水池には新たなオスが来てメスとカップルになったので、産卵は確実です。

### カイツブリ通音

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

絵と文 せのつやちこ

# 井の頭公園の歴史に 渋沢栄一の足跡あり

## 井の頭恩賜公園の歩み

井の頭恩賜公園が開園した大正時代、周辺はまだ農村で、人口は武蔵野村が約四千二百人、三鷹村が約五千五百人。甲武鉄道(現JR)の吉祥寺駅が1899(明治32)年に開設されていたとはいえ、住む人も訪れる人も少ない地域でした。そのような場所に公園が造られた背景には、どんな経緯があったのでしょうか。



◀邸宅のあった北区の飛鳥山の「渋沢史料館」では、豊富な史料を見ながら生涯を辿れる。

北区西ヶ原 2-16-1(飛鳥山公園内) 月曜休館



▲昭和5年、養育院感化部の30周年記念運動会で挨拶する渋沢栄一。【写真提供：渋沢史料館】

1905(明治38)年、「東京市養育院」の感化部「井之頭学校」が御殿山にできました。  
「東京市養育院」は現「東京都健康長寿医療センター」の前身で、困窮者、病者、孤児、老人などを保護するために明治初頭に設立された先進的な施設でした。そして院長として約半世紀のあいだ福祉事業を拡大したのが渋沢栄一です。約五百の株式会社・銀行などの設立に関わった日本資本主義の父は、社会公共事業や慈善事業にも広く尽力した懐の深い実業家だったのです。

当時、小石川にあった養育院では浮浪少年による悪影響が問題となり、渋沢栄一は「就中農業に服せしむるを最良法と為すは欧米に於いて経験する所なり」と説き、それに適した環境の井之頭の御料地拝借を宮内省に交渉し、東京市会にも感化部の移転を建議したのでした。幕末に徳川慶喜に仕え、その弟の昭武の随員として渡仏した見識と、政治的な人脈あつての移転実現でした。

一方、明治時代後半には、東京西郊の武蔵野の紋情に価値を置く文化人が増え、公園開設の気運が高まります。計画案を練っていた井下清(後の東京都公園課長が御料地拝借案を相談すると「田園都市」の主唱者でもあった渋沢栄一はさっそく後押し。1913(大正2)年10月21日、御料地無料借用の申請が宮内省に、郊外公園設置案が東京市会に提出される運びとなったのでした。その案には、公園の工事は「井之頭学校の生徒の園芸実習としても位置づけられていました。様々な政治的、社会的な問題の解決に向けて、常にいろいろな人が力とお金と知恵を出し合って解決するよう働きかけた渋沢栄一。昨冬の「かいほり」での市民・地域・行政の協働をご覧になったら、さぞや感銘されたことでしょう。

※前16号の記載に「上野恩賜公園(江東区)」とあったのは、「台東区」の誤りです。

### 私と井の頭公園 その17

## 辛うじて残っている自然を守りたい

高野 丈(三鷹市在住)

2003年に北海道で探鳥会の手伝いをしたのが、自然保護運動に関わったきっかけです。そのころは、井の頭公園ではたいしたものも見られない、北海道や東北や信州など遠くへ行かないかと思っていました。ところが良く見ると、多様な動植物がいることが分かった。井の頭公園の見方がガラッと変わりました。周りの自然環境が少なくなっているだけに、自然が辛うじて残っている公園を守らなれないかと思っただけです。

例えば、井の頭公園と玉川上水付近では、私たちの観察で143種の鳥を確認しています。その内の12種は環境省版のレッドリスト\*に記載されています。ミンゴイなどは世界で100羽しかないといわれている鳥です。この鳥が毎年井の頭公園に立ち寄るんです。エサの豊富さに加え、隠れる場所があるからですね。植物でもやはりレッドリストに記載されている数種のランが上水沿いに見られます。

この10年近く、自然観察会を開いてきましたが、参加者のみなさんは身近な井の頭公園に多様な生きものがあることに気づくと、井の頭公園の見方がガラッと変わるんです。私の10年前と同じです(笑)。観察を通じてそういう感動を沢山伝えるのが楽しく、生きがいになっています。これからも続けていきたいですね。

(写真家・編集者 たかのじょう)  
(聞き手・写真・川井信良)



\*環境省版レッドリスト:絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。日本に生息又は生育する野生生物について、専門家や構成される検討会が、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を科学的・客観的に評価し、その結果をリストにまとめたものです。(環境省HP)

川井信良(かわいしんりょう)  
70年代80年代に「三鷹のミニコミ」また「びび」や「みたかさいたか」を発行



写真 古賀 親宗(こが もとりの)  
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

## 『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。「いのきちさん」は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発行された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)



「いのきちさん」のホームページができました!更新中!  
<http://www.inokichisan.com/>

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。  
✉ [inokichi@bun-shin.co.jp](mailto:inokichi@bun-shin.co.jp)

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

スマートフォンのQRコード

R100 VEGETABLE OIL LINK

## よみがえれ! 井の頭池 17

▼毎日たくさん捕獲されているザリガニ。  
写真提供: 井の頭かんざつ会代表 田中利明さん



井の頭池に、在来魚がぐんぐん増えている!

今年1月から2月に「かいほり」が行われ、外来魚のブルーギルやオオクチバスがたくさん駆除された井の頭池。応募で集まった「かいほり隊」の方々と地元『井の頭かんざつ会』のみなさんが、その後も熱心に定点観察を続けています。

予想以上に増えているのはザリガニです。5月半ばから1カ月間に捕獲されたザリガニは二千匹以上。「かいほり隊」の活動も週2回から週3回に増やしました。また、在来種のモンゴやナマズが増えていることも観察され、5月末にはトウヨシノボリの稚魚も多数みつかり、「こんなに池の生物の状況が変わるなんて!」と感動が広がっています。

外来魚も生き残っているとはいえ、平成27年にも「かいほり」を行えば、成長する前に相当量駆除することができ、在来魚が増える余裕ができるかと予測されています。